探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：大竹市立大竹中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
大竹市立大竹中学校	11	300
大竹市立大竹小学校	24	653

（R5.12.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

本質的な問いにせまる課題を
主体的に解決しようとする児童生徒の育成
～リフレクションを活用した
探究的な学びの実現を通して～

児童生徒が「解決したい」「探究したい」と思える課題を設定し、テーマとの出会いや活動内容を工夫していく。また、活動の中で思考ツールやリフレクションシートを効果的に活用し、振り返ったことを次の学び、他の場面で生かしていく。その際、児童生徒の活動を客観的に評価するために、ルーブリック評価を効果的に活用する。また、教師のファシリテーションを探究的な活動を展開していく上での活動のベースと捉え“本物の探究”に近づけることで児童生徒の資質・能力を高めていく。

（２）資質・能力の設定について

児童生徒の実態から１年次は重点的に育てたい資質・能力を「主体性」「思考力・判断力・表現力」として取り組んだ。２年次以降はそれまでの成果と課題を踏まえて、より活動の主体が児童生徒となるような探究的な学習を目指し、重点的に育てたい資質・能力を「主体性」と「課題発見・解決能力」の二本柱として取り組んだ。

（３）取組について

①探究的な学習の充実に向けての取組

ア　理論研修
イ　単元計画　※単元構想シートの活用
ウ　授業づくり※ファシリテーションを意識した展開
・課題解決を意識した授業展開や活動の工夫
・リフレクションの効果的な活用
・思考ツールの効果的な活用
・ルーブリック評価の活用
・ＩＣＴの効果的な活用
・取組の掲示・共有
・「資質・能力系統表」の改善・活用

②小中連携の取組

ア　小中合同研修
中学校区で連携して研究を進めるために毎週、小中の研究主任が「研究推進ミーティング」を行い、研修の計画等の細かい打合せを行った。また今年度５回の小中合同校内研修を行った。県立教育センターの「学校サポート研修」に申し込み理論研修も深めた。合同で研修を行うことで小中の共通認識を深めながら共に同じ方向を目指して取り組むことができた。

イ　大竹小中学校「育てたい資質・能力」系統表
重点をおく資質・能力について、各学年の終了時に、どのような力の獲得を目指すのかということを小中９年間で系統立てて作成した。系統表は必要に応じて修正を加えながら活用している。

ウ　ルーブリック評価の活用
「育てたい資質・能力表」、「単元の目標」等を元に、単元のルーブリックを作成した。評価規準のＡとＢの違いを明確化すること、客観的な見取りのために児童生徒の行動面に着目すると良いこと等を学んだ。

２　実践事例

（１）相手意識と活動の見通しをもたせる工夫

小学校　２年生　生活科
「うごくうごくわたしのおもちゃ
～竹小おもちゃランドへようこそ～」

年度初めから、１年生との交流を意図的に仕組むことで２年生が相手意識をもつことができるようにした。例えば、１年生教室の飾り付けや、学校紹介クイズ、朝顔の種のプレゼント等の取組を行った。

本単元に入って学習が進むと「自分たちが楽しむだけでなく、１年生を楽しませたい」という声が２年生の中から挙がった。そこで『『竹小おもちゃランド』に１年生を招待して楽しませる」というめあてを児童と確認して取組を進めた。

活動に当たっては、かめが山登りをして進む学習計画表で楽しく活動の見通しがもてるようにした。途中で２年生だけで『おもちゃ広場』を行い、実際に遊んでみてお互いにアドバイスを行い、１年生を楽しませるために高め合う活動を入れた。「１年生を楽しませたい、喜ばせたい」という思いが、おもちゃの改良や、場の工夫に取り組む原動力となっていった。

（２）地域の教育資源を活用

小学校　３年生　総合的な学習の時間
「ぼくたちわたしたちの大竹大発見
～大竹のおいしいものを調べよう～」

３年生は大竹市のステキを見付ける中で、食に焦点を当て「大竹の食材を使った給食メニュー考案」に取り組んだ。

地域の農家の方や日本料理店のシェフ、栄養教諭等さまざまなゲストティーチャーから大竹の食材についての情報収集を行った。グループで協働的に学習を進め、大

竹の食材のおいしさが伝わるメニューを考えた。「えいようまんてん大竹ラーメン」「大竹のあいじょうたっぷりレモンハマチバーガー」等、生産者の思いを込められるように工夫した。

実際に３月に大竹市内の学校給食に出されることが決まり、児童は充実感をもつとともに、ゲストティーチャーからの学びなどを通して地域についての知識や愛着を深めることができた。

（３）地域の課題を解決する活動

小学校　６年生　総合的な学習の時間

「大竹の伝統と心を伝えよう

～大竹和紙を未来へつなごうプロジェクト～」

６年生は大竹市の伝統を調べていく中で大竹和紙の後継者不足などの課題に直面し課題を設定した。

「おおたけ手すき和紙保存会」の方に教えていただき、実際に手すき和紙を体験した。そして大竹和紙の魅力を伝えるための方法を考え、パンフレットとしおりを制作し、県大会で来校者にプレゼントした。さらに、大竹和紙の特徴を生かし子供から大人まで多くの人に受け入れられるような大竹和紙を使った商品開発のアイディアを話し合い自分たちの考えた商品の提案を行った。

活動を通して、児童は大竹和紙の歴史や、伝統を守る人々の思いを知り、自分事として地域課題の解決に向けて取り組むことができた。

（４）PBLを意識した単元開発

中学校　１年生　総合的な学習の時間

「大竹っていいよね！

～もう“通り道”なんて言わせない！～」

小学校６年生の時に大竹市のふるさと納税の返礼品について考え、大竹市に提案した経験をした生徒に、中学生では実際に“やってみよう！”をテーマに自分の考えたことを実現することを目標に活動を始めた。

導入で、小学校の活動を振り返り、大竹市が“通り道”と言われている課題に向き合わせ、どうしたら“通り道”にならないか、クラスごとに考えさせた。教師はファシリテーターに徹し、生徒の柔軟な意見を引き出すよう努めた。大竹市のＰＲキャラクター“コイちゃん”のグッズにして大竹市を有名にしたいと活動を始めたクラスは、ハンカチをデザインし、文化祭で完売させることができた。これらの活動が大竹市外にも広がるよう、再度企画書を書き、ゲストティーチャーである大竹市議会議員の方や、ＰＲすることを仕事にされている方からアドバイスをいただき、企画を改めた。改めた企画書を大竹市商工会議所の方等にプレゼンテーションを行い、来年度の活動につなげていく。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

＜教職員アンケート肯定的回答の比較(%)＞

項目	小学校		中学校	
	R4	R5	R4	R5
学習内容の工夫	100	100	100	100
リフレクションを次に生かす	92	93	62	90
学びをファシリテート (生活科・総合的な学習の時間で)	79	80	70	90
学びをファシリテート (生活科・総合的な学習の時間以外で)	63	94		70

小中連携を図りながら、研究の重点を意識した探究的な学習の取組を進めたことにより、教職員アンケートの各項目で肯定的評価の数値が高かった。また、昨年度と比較して多くの項目で数値の上昇が見られた。

＜児童生徒アンケート肯定的回答の比較(%)＞

項目	小学校		中学校	
	R4	R5	R4	R5
大竹のよさや課題に気付いた	92	91	94	87
自分で考えて行動することができた	91	87	77	86
進んで取り組むことができた	92	90	77	81

重点をおく資質・能力の「課題発見・解決能力」と「主体性」について、昨年度と比較して数値の上昇が見られない項目があったが、全ての項目で80%以上の高い結果となった。

成果として次の３点を挙げる。

① 総合的な学習の時間に全ての学年で地域について扱い、大竹についての理解や思いを深めることができた。

② リフレクションシートやルーブリック評価等の工夫や活用で、児童生徒の思考の深まりが見られた。

③ 小中の教職員で共通認識し、９年間を見通した探究的な学習の単元開発が進んだ。

（２）課題

① 探究的な学習が生活科や総合的な学習の時間内限定の学びとなっている傾向があり、他教科や生活場面と双方向の学びとなっていない。

② ルーブリック評価の活用に教職員間での差があり、教師主導の評価になっている面がある。

③ 取組の中で、依然として活動の主体が児童生徒となっていない場面も多くある。

（３）今後の改善方策等

活動の主体を児童生徒として進める中で、資質・能力の伸長を目指してきた。３年間の研究を終え、先に挙げたような成果が見られた。今後の取組は次の２点を挙げる。

１点目、これまでは、生活科・総合的な学習の時間に教科領域を限定して単元開発の取組を進めてきたが、今後は探究的な学びを他教科等にも広げていくことで、生活科・総合的な学習の時間と他教科、さらには生活場面が双方向の学びとなるまでに高めていきたい。

２点目は、今後も今以上に、教師のファシリテート力を高め、本当の意味で活動の主体が児童生徒となるような、本物の探究を目指して取組を継続していく中で、児童生徒の資質・能力を育成していきたい。